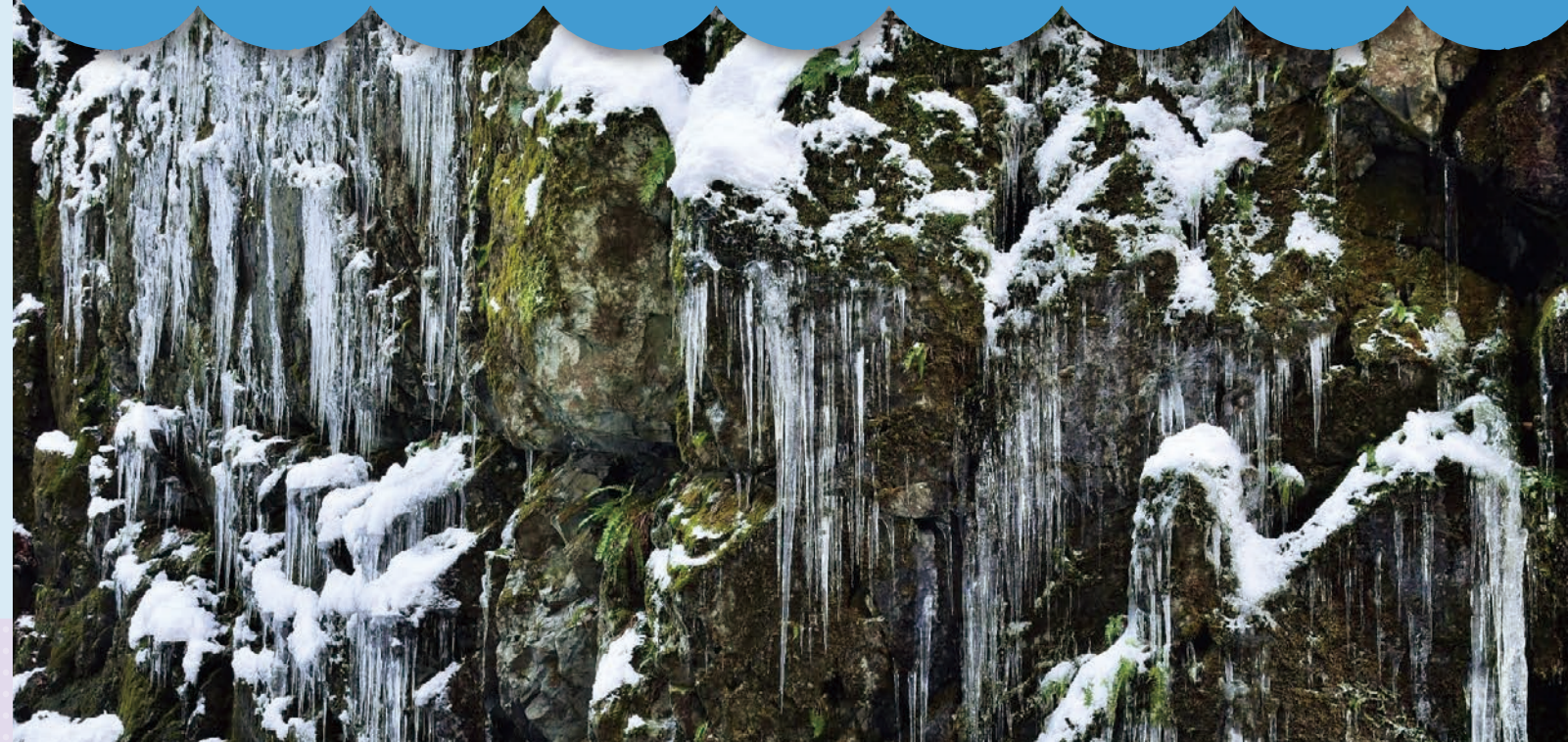


ひがりの都



普段着の私

リハビリ療法部 理学療法士 沖西 正圭

尺八といえば皆さんはあまり馴染みがないと思います。ですが、おそらくは皆さん毎年のお正月に聞いていると思います。その曲は宮城道雄の「春の海」で、You Tubeなどで聞いてもらえたら、「あ、この曲か」とすぐにわかると思います。

尺八の難しさを表す言葉で「首振り3年コロ8年」があります。「首を振る」とは尺八は首を上下や左右、まわしたりすることで、音程の変化や音色の変化を出す事ができる不思議な楽器です。実際に3年ではなかなか首を振って音色を変えたりすることは難しいです。また「コロ」とは細かく指を動かしてコロコロという音色を奏でるのですが、これも8年ではなかなか出せる音ではありません。

そのぐらい演奏することが難しい楽器ですが、なかなか楽しいもので、私は30歳の頃から尺八を習いはじめ、気が付けば16年たっていました。現在は都山流尺八で「沖西 秀山（おきにし しゅうざん）」という名前で活動しております。最近では令和4年、5年、6年の兵庫県大会で1位を獲得することができました。しかしながら、全国には強者が多く、まだ近畿大会を突破し全国大会へは進めておりません。

これから仕事と両立しつつ、尺八の良い音を追求めていき、全国大会で良い成績が残せるように頑張っていきます！機会がありましたら、皆様にもぜひ聞いてもらいたいですね。



西病棟 看護師 田中 賢司

ふとした瞬間に興味という趣味がないことに気づき、盆栽を始めました。

老後のために今から練習をする程度に考えていたところ、ひょんなことから、盆栽教室の先生と出会い、小学生の娘と一緒に通っています。写真からはわかりにくいのですが、4～5cmの鉢に植えたミニ盆栽です。飾り棚も自作です。（本物は高くて手が出ないので100円均一の材料で作ってみました）

まだまだ初心者ながら、盆栽展にも出展させていただき、そこでも新しい出会いに恵まれています。なんとテレビ番組にも娘と一緒に出演させていただきました。番組の撮影で大変ですね。プロの仕事には関心しっぱなしで、家族と楽しく放送を観ました。（もちろん録画しました。しかも、実家の母にも頼んで、撮り逃しがないよう万全の体制で）

盆栽といえば波平さんのイメージが強く、どうしても高齢者のイメージがあります。しかし、盆栽に関わっている皆さんは驚くほどエネルギーで、とても敵いません。好きなことを全力で楽しむって、こんなにも人生に彩りを与えてくれるのだとしみじみ感じながら、日々の水やりにも励んでいます。



Welcome 各部署の紹介について 放射線部

松の内のにぎわいも過ぎましたが、皆様変わりなくお過ごしでしょうか。放射線部では11月から新たに職員が加わり、少し若返った4人でスタートを切ることとなりました。

さて、リハビリテーション病院である当院では、パーキンソン病や認知症に対する検査を多く行っており、放射線部の業務である認知症早期鑑別診断を目的としたMRI検査と核医学検査について紹介させていただきます。

まず、MRI検査では脳の断面や血管の立体像を用いて形態を調べ、更に詳細なMRI画像をVSRADという早期アルツハイマー型認知症診断支援システムで解析し、脳の萎縮度を表示、数値化することで診断に役立てています。

次に、核医学検査は投与された微量の放射性医薬品の分布や集積量、経時的変化の情報から機能や代謝状態などを評価することができ、形態変化前の早期発見に役立ちます。当院では主に3種類の検査を行っており、いずれも身体の機能を確認する検査です。脳血流シンチでは疾患による血流低下部位の違いを、ドパミントランスポーターシンチ、交感神経シンチではドパミン神経や交感神経の働き具合を画像化することで、より正確な診断を行うことができます。具体的には、アルツハイマー型認知症と他の認知症疾患の鑑別、またパーキンソン病やパーキンソン症候群などとの鑑別に有用です。

認知症の早期発見、早期治療は高齢化が進む日本において重要視されており、当院でも認知症の進行を遅らせる新しい薬の使用が始まっています。これからもスタッフ一同、患者さんとご家族に寄り添った質の高い、安全で安心できる医療を提供すべく日々研鑽し精進してまいりたいと思います。



新年のご挨拶

管理局長 春名 常洋



新年あけまして、おめでとうございます。

私は今年、この西播磨病院で初めて新年を迎えることになりましたが、昨年4月に着任して間もなく、敷地内巡回の際にこのような直感を抱いたことを思い出しました。「もし近い将来、自分がリハビリ目的で入院することになったら・・・この病院を選ぶだろうな。敷地は広大、視野の半分は緑、病室は山小屋みたいで落ち着きそう、それとスタッフの清々しさ・・・素晴らしいではないか」と。正直なところ、今でも、通勤の度に思うところです。

さて、今年は2025年。この年がとうとうやって来てしまいました。2025年は、団塊の世代のみなさんが75歳以上（後期高齢者）になれる年であり、国民の5人に1人が75歳以上になれるという超高齢化社会の象徴的な年です。いわゆる「2025年問題」といわれ、その問題の1つとして、人材不足、労働力不足が挙げられているのはご存じのところかと思ひます。

一方で、（専門用語では15歳から64歳を「生産年齢」と言いますが、）70歳までを生産年齢とみなせば、50年後も現在と同程度の労働力を確保できるという推計結果も出ており、また、いわゆる働き控えを抑制するための「年金50万円の壁」の見直しも始まるなど、今後は特に、人材、地域活力の担い手としての高齢者に一層の期待が寄せられています。

このような社会情勢において、住民、高齢者のみなさんが一時的に心身つらい状態に陥って入院されたとしても、退院され、そして人材として、地域活力の担い手として社会貢献いただけるとすれば、それは本当に素晴らしいことだと思います。当院としても、今年開院20年の節目を迎える伝統あるリハビリテーション専門病院として、患者さんの望む生活のご支援ができることは、この上ない喜びです。

今後とも、「地域とともに歩み成長する」病院として、そして、地理的には少し遠く感じられるかもしれませんが、素晴らしい療養環境下で、患者さん一人ひとりに合った個別のかつ先進的なサービスの提供に努めてまいります。

本年も、引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

はま坂に、
ハマっちょお！

浜坂温泉保養荘

1泊2食
7,500円～
※65歳以上(平日)

☎(0796)82-3645

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775

Play Sport

ふれあいスポーツ交流館

TEL 0791-58-1313
FAX 0791-58-1323

〒679-5165 たつの市新宮町光都1丁目7番1号

令和6年度 県民公開講座を開催しました！

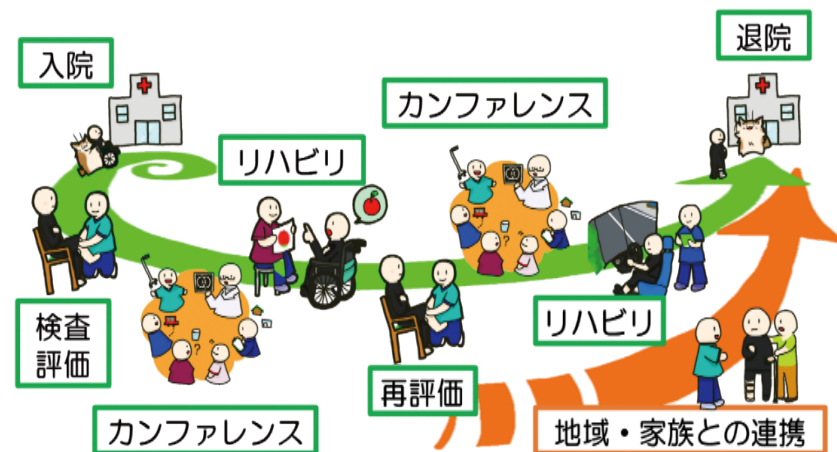
もしも脳卒中になったら・・・

～リハビリ病院の入院治療から 退院支援までをご紹介します～

令和6年11月9日（土）開催

西播磨リハビリテーションセンター
交流ホール
69名参加、ありがとうございました！

「もしも脳卒中になったら・・・」をテーマに、医師、療法士、看護師、医療ソーシャルワーカーの各専門職より、講演を行いました。急性期病院退院後にどのように回復し、社会復帰していくのかを、医師からの総論の後、当院の回復期リハビリテーション病棟での1事例に沿ってご紹介しました。入院中は、ひとり一人に担当者がつき、①検査・評価：入院された時の運動や言葉などの状態を調べる②カンファレンス：主治医・看護師・セラピスト・医療ソーシャルワーカーが集まり現状の報告や今後の方針などを話し合う③リハビリ：評価や検査、患者さんやご家族の希望を踏まえ、基礎的な訓練を行なう④再評価：訓練を行い、どう変わったかを確認する⑤カンファレンス：訓練を行った変化点の報告や今後の生活の組み立てについてなどを話し合う⑥リハビリ：再評価の結果や、患者さんやご家族の希望を踏まえ、応用的な訓練を行なう⑦地域・家族との連携：退院に際しての情報提供や確認したいこと等の情報交換を行う、個別に対応しつつ①～⑦のような段階を経て、退院に至ることを説明しました。



リハビリ療法部

理学療法（PT）では、生活の質の向上を目指して基本的動作能力を回復するよう運動や動作指導を行い、日常生活の改善を図ります。作業療法（OT）では、様々な作業活動を通して機能の回復に向けた練習や、残された機能を最大限に活用し、家庭や仕事への復帰ができるよう支援を行います。言語聴覚療法（ST）では、コミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援します。また、摂食・嚥下の問題にも専門的に対応します。この他に、心理療法・音楽療法・園芸療法があり、心理面にもアプローチしています。

看護師

リハビリ室で出来ている日常生活動作（ADL）を、病棟で出来ている日常生活動作（IADL）に変えていくよう、生活動作全般の支援を行います。ご家族の生活スタイルに配慮した介護指導や再発予防指導にも力を入れています。また、当院退院後のフォローアップ体制として失語症専門外来や、ボトックス外来、通所リハビリ（要件有）、脳卒中看護認定看護師による看護相談等のご紹介もさせていただきます。

医療ソーシャルワーカー

患者さんが療養中に抱える様々な社会的問題（心理、社会的問題、退院支援、経済的問題、社会復帰）の解決を担当します。脳卒中においては退院支援が中心となります。患者さんの社会的背景を把握し、当院での治療やリハビリの進行に応じて、介護保険をはじめとする地域の社会サービスに効率よくつなげ、住環境や社会関係を整えたうえで退院できるよう患者さん、ご家族を支援しています。病気にならないのが一番ですが、なってしまった場合は、医療サービスや福祉サービスを上手に利用するためのお手伝いをしています。

このように、脳卒中になっても住み慣れた地域で自分らしく趣味や仕事をしながら、ご家族と安心して暮らし続けられるよう、医師をはじめ、多職種で患者さんやご家族を支援しています。地域連携室では相談も受け付けていますので、気楽にお声掛けください。お待ちしております。

講演終了後、リハビリ室や福祉用具展示場の見学に60名が参加しました。
ご参加いただいた皆さまには、心より感謝を申し上げます。



嘔吐物処理研修(院内感染対策研修)について

当院では医師・看護師はじめ各専門職種による感染制御チーム（以下、ICT）が活動しています。活動内容としては、定期的に院内をラウンドし、感染対策上の課題の検討を行うほか、手指消毒のサーベイランス、院内感染対策研修の企画運営等に取り組んでいます。

医療機関では医療法に則り院内感染対策研修会の実施（年2回程度）が義務付けられており、当院では令和6年度7月に「手指衛生研修」、11月に「嘔吐物処理研修」を実施しました。「嘔吐物処理研修」では、院内感染対策マニュアルに記載している嘔吐物処理手順に基づき、院内各部署に設置している嘔吐物処理セットを用いて、実際の処理手順に従い、実技演習を行いました。職員が参加しやすいように研修日を2日間設け、ICTメンバーが中心となり、各グループの実技指導を行いました。目に見えないウィルスによる感染拡大を防止し、適切な手順で処理することはもちろん、自分の身を守るための個人防護具（PPE）の正しい着脱方法の復習の機会となりました。これからも院内感染から患者さんと職員を守るためのチーム活動に励んでいきます。



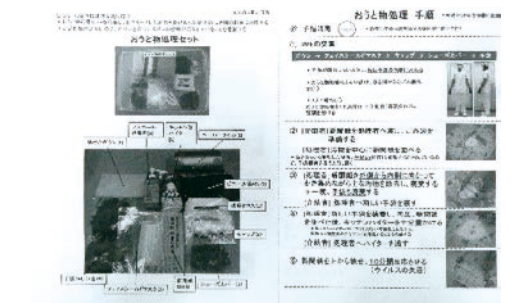
ICTによる院内ラウンド



嘔吐物処理セット



嘔吐物処理研修の風景



嘔吐物手順書

褥瘡ワーキングについて

褥瘡は、身体に加わった力（圧迫・ずれ）によって骨と皮膚との間の組織の血流が低下し、その状態が一定時間継続すると皮膚損傷を起こし、褥瘡となります。褥瘡は寝たきり高齢者に多く発生するイメージがありますが、当院ではどの患者さんもりハビリのためベッドを離れリハビリを行うため車いすに座って過ごされる事が多く、両下肢麻痺の患者さんが長時間座位で過ごす事による褥瘡や、麻痺側の外踵部にできる褥瘡、装具着用による褥瘡などがあります。

その為、医師（整形外科医）、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師と協同し、第1、第3水曜日に褥瘡回診を行っております。また、第2、第4水曜日については、医師と看護師で回診を行っています。褥瘡発生リスクに対し予防する事や、適切な治療のため様々な職種が協同し、専門分野の視点で関わりながら治療法を検討しています。

近年では、スキナーテアの発生も増えており、発生時の対処方法や予防に向けた取り組みを検討しています。

